

令和5年12月18日

太田市議会議長

矢部 伸幸 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和5年10月12日（木）から10月13日（金）までの2日間
- 2 視察地 青森県八戸市（第85回 全国都市問題会議）
- 3 視察事項 （1）青森県八戸市
① 第85回 全国都市問題会議
- 4 参加者 7名
白石さと子 町田 正行 渡辺謙一郎 大川 敬道
木村 浩明 神谷 大輔 山水めぐみ
- 5 視察概要 別紙のとおり

全国都市問題会議

〈10月12日（木）〉

○基調講演

「アート役割って何だろう？」

東京藝術大学学長、アーティスト 日比野 克彦 氏

○主報告

「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

青森県八戸市長 熊谷 雄一 氏

○一般報告

「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」

文化事業ディレクター、演出家 吉川 由美 氏

○一般報告

「標高差 1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」

長野県東御市長 花岡 利夫 氏

○一般報告

「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」

株式会社鹿島アントラーズFC取締役社長 鈴木 秀樹 氏

13

〈10月14日（金）〉

パネルディスカッション

テーマ：文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

パネリスト：合同会社 imajimu 代表取締役 今川 和佳子 氏

拓殖大学商学部教授 松橋 崇史 氏

静岡県沼津市長 頼重 秀一 氏

京都府綾部市長 山崎 善也 氏

（1）所感

まず、日比野克彦氏の基調講演において、アートの果たす機能を主眼に置いて、
人のこころを動かし、人の行動を変容させるというアートの特性から、アートは、「社

会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なものである」ということを導き出して、さまざまな社会的課題に対するアートの取り組みの実践事例の紹介がありました。

そうした事例の中で、まちの課題を一番、よく知っているのは市役所の職員の方たちというところから着想を得て、日比野氏が館長を務める熊本市現代美術館において、同市のまちづくりの推進をアートを通じて、市民に身近に感じてもらおうと、同市の総合計画を美術館の企画として、「第8次総合計画展」を実施したとの事例が紹介されました。当日の配布資料に、「ご用聞き ー熊本市現代美術館の館長が市役所にご用聞きに行く理由 0号」と題された冊子も配られ、この冊子自体が、まちづくりを扱ったアート作品と捉えられ、理解が深まりました。

こうした日比野氏の講演のコンセプトを受けて、熊谷雄一・八戸市長より、同市の中心部に立地し、新たな交流と創造の拠点として開館した八戸ポータルミュージアム はっちについての紹介があり、その場に行かなければ得られないもの、出会えない人やコトが集まる場を、市民が観客としてではなく、当事者として自ら参加したり創作したりできる形でつくることが、はっち運営のキーコンセプトであり、現在は、市中心部に立地する回遊性を活かして、点から面への展開を図っているとの説明がありました。

2日目のパネルディスカッションでは、はっちの運営に、民間の立場から参画している今川和佳子氏より、活動を通じ、はっちへの集客だけではなく、通行量や新規の事業所開設の増加など、波及効果をもたらしているとの話があり、そうした基盤があらたな活動を生み出すことにつながっているということで、デコトラを扱ったイベントが紹介されました。

本市においても、市中心部に有する太田市美術館・図書館について、交流と創造のさらなる拠点化を図ることで、アートによる社会的課題の取り組みに対する実践にもつなげていけると考えられ、今後の調査研究に活かしたいと考えます。

